

柴田安彦（無党派）

暑さ対策について

問 子どもたちの暑さ対策や学習環境の整備のため、学習室の確保が有効と考えるがどうか。

答 形原公民館では、以前から一部の会議室を学習室として開放しているが、今年度は夏休み期間中に限り、形原のほか、蒲郡、小江、西浦の各公民館を開放した。

また、小学校では夏休み期間中、曜日や時間を決めて、図書室を学習や読書の場として開放している。今後、エアコンが設置される教室を学習室として利用することも検討していきたい。



問 行政無線と安心ひろめるにより熱中症予防の注意喚起を行っているが、高齢者の暑さ対策として、災害時要援護者支援制度に熱中症対策を組み込んで、声かけや安否確認ができるようにしてはどうか。

答 災害時要援護者支援制度は、災害発生時に避難が困難な方が利用するものであり、日常の見守り制度として利用するのは難しいと考える。

高齢者の見守りについては、民生委員による自宅訪問のほか、郵便局、金融機関、新聞販売業者等と協定を結び、高齢者見守りネットワーク事業を実施している。協定事業者による会議を年1回開催しており、今年度は暑さ対策を議題として意見交換等を行っていきたい。

喚田孝博（自民党市議団）

水素ステーション設置について

問 東三河で初となる水素ステーションの設置が



予定されているが、開設の時期や設置の場所は。

答 日本エア・リキード株式会社から、来年3月から4月にかけて海陽町地区にオフサイト方式の水素ステーション設置を予定している。

問 FCV（燃料電池車）の普及促進のため、公用車への導入や購入支援制度を創設する考えは。

答 県内14自治体で公用車への導入があり、支援制度も10自治体で実施しており、今後研究していく。

予防接種事業について

問 成人用肺炎球菌ワクチン予防接種事業では、

公費助成が受けられない方がいるが、任意接種への助成や接種期間の延長をするなどの対応が必要と考えるがどうか。

答 任意接種への助成制度は、県内41市町村で実施されているが、来年度以降の国の動向を注視し、研究していきたい。

問 不活化ポリオワクチンの経年変化による抗体価の低減が指摘されており、就学前追加接種を実施している自治体もあるが、今後の取り組みは。

答 就学前追加接種の必要性は認識しているが、当面は国による検証を注視していきたい。

広中昇平（自由クラブ）

モーターボート競走事業からの繰り出し金について

問 各事業への繰り出しの現状について伺う。

答 モーターボート競走事業からの繰り出し金は、学校や公民館、文化施設など、市のさまざまな公共施設の整備等に充てており、市の

財政に大きく貢献してきた。過去5年間では、病院事業に65億円、下水道事業に30億6千万円、土地区画整理事業に12億4千万円、総額108億円の繰り出しを行っている。

問 各事業への繰り出しが落ち着けば、繰り出し金はボートレース事業発展のために使うべきと考える。

答 ボートレース蒲郡南東駐車場の今後の利用策として繰り出しを活用し、芝生広場を整備することは可能か。

各事業を進めるために数年間は現在と同等の



市の財政に大きく貢献してきたボートレース蒲郡